

長野県史料保存活用連絡協議会設立経過

平成8年度

11月21日

県立歴史館文献史料保存講習会の参加者の間から、文献史料の保存活用に関して、県及び市町村の連携の必要性や情報のネットワーク化について長野県史料協設立の要望が出される。検討のために準備会を組織し、県内の史料保存利用機関の代表者（南木曾町博物館遠山高志、松本市史編さん室小松芳郎、松代藩文化施設管理事務所原田和彦、長野県立歴史館柳沢哲・小平千文）を選定する。

平成9年度

8月30日

他県の状況について、新史料協（新潟県）研修会へ参加し、調査する。

9月18日

埼玉県、群馬県の事情について、調査する。

3月6日

第6回都道府県・政令指定都市公文書館実務担当者研究協議会（国立公文書館）事例発表で「長野県における史料保存活用ネットワークの可能性」を長野県立歴史館梅原康嗣が報告する。

3月18日

第1回準備会を開催する。参加者：南木曾町博物館遠山高志、松本市史編さん室小松芳郎、松代藩文化施設管理事務所原田和彦、長野県立歴史館柳沢哲・梅原康嗣

*会の対象物は文書史料に限定する（古文書・公文書）

文書を扱う機関を対象に、公的な会とする。

平成10年度

4月1日

準備会通信「長野史料ネットワーク」創刊号を発行する。

5月14日

第2回準備会を開催する。参加者：南木曾町博物館遠山高志、松本市歴史文書係小松芳郎、松代藩文化施設管理事務所原田和彦、県立長野図書館酒井田鶴子、むれ歴史ふれあい館小山丈夫、上田市立図書館荒井美栄子、八十二文化財団松橋好文、上田高等学校小平千文、長野県立歴史館柳沢哲・梅原康嗣

*県内の史料保存・活用の実態を明らかにしたい。

7月1日

準備会通信「長野史料ネットワーク」第2号を発行する。

8月10日

歴史館が「行政文書・古文書等の保存・活用に関するアンケート」を実施。

10月23日

県下120市町村に依頼。
歴史館「文献史料保存活用講習会」でアンケート結果の概要を報告する。講習では埼玉県立文書館新井浩文氏から、埼玉県地域史料保存活用連絡協議会の動向をお聞きする。

平成11年度

4月1日

準備会通信「長野史料ネットワーク」第3号を発行する。

7月1日

準備会通信「長野史料ネットワーク」第4号を発行する。

7月29日

第3回準備会を開催する。参加者：南木曾町博物館遠山高志、松本市文書館小松芳郎（代理福島紀子）、松代藩文化施設管理事務所原田和彦、県立長野図書館林千夏、むれ歴史ふれあい館小山丈夫、諏訪市立博物館小林純子、上田高等学校小平千文、長野県立歴史館樋口和雄・梅原康嗣

*機関・個人会員制でスタートする。会費案について他の機関と比較して3000円、1000円とする。

会則案について、検討を重ねる。

9月1日

準備会通信「長野史料ネットワーク」第5号を発行する。

9月30日

第4回準備会を開催する。参加者：南木曾町博物館遠山高志、松本市文書館小松芳郎、松代藩文化施設管理事務所原田和彦、県立長野図書館林千夏、むれ歴史ふれあい館小山丈夫、上田高等学校小平千文、長野県立歴史館樋口和雄・梅原康嗣

*会則、事業計画、設立総会日程、総会次第等について原案作成の協議をおこなう。

11月11日

文献史料保存活用講習会において、設立についての経過説明と入会依頼をおこなう。

11月30日

市町村等に対して入会依頼を実施する。

平成12年度

設立総会及び記念講演会の開催